

わくわく学ぼう

令和4年度『どんぐり学級』開講式

4月26日に、どんぐり学級の開講式がありました。新しく7人を加えて、学級生19人となり、一年間を通して講話や一日遠足、温泉入浴など多種他様なカリキュラムを受講していきます。

開講にあたり学級長の雨田勇さん（池之向）が、「いろいろなことを学び合うどんぐり学級にしましょう」とあいさつしました。



※敬称略
前列左から 城木峰子・長野テイ・長谷川和子・今間三九子・雨田勇
日高茂・安田義次
後列左から 上門咲子・中山洋子・横山日沙子・嶋名郁子・森山功日
内村和子・馬場英子・安田安子・榎本ゆう子・徳永三季

グリーン・カレッジキャンプ体験

自然レクリエーション村



開会式では本町の特産品として安納芋などを贈呈

5月3日から5日にかけて、熊野の自然レクリエーション村で、放送事業などを手がける「ディスカバリー・ジャパン」主催によるキャンプ体験が開催されました。小学4年～6年の児童20人が参加し、アウトドアを通じて環境に対する関心を深めながら、キャンプを楽しみました。

また、特別協賛のキャンプ製品メーカー「コールマン」から、テント10張が町に寄贈され、自然レクリエーション村で使用されています。

地域おこし協力隊通信 (No. 64)

「空き店舗活用に関する補助金制度ができました」

私が地域おこし協力隊として取り組んでいる仕事の一つに「空き家・空き店舗の利活用の促進」があります。これまで、この協力隊通信の場では、古房集落の空き家を再生した背景、移住者を受け入れることができた過程を書かせていただきました。

今回は、この令和4年度から新たに始まった「中種子町空き店舗等活用整備事業補助金」(以下、空き店舗整備事業)について紹介したいと思います。

町内をはじめ、全国では少子高齢化や後継者不足に伴い空き家や空き店舗などの増加が社会問題として注目されています。なかでも鹿児島県は、平成30年住宅・土地統計調査(総務省)の結果によると、住宅総数に占める空き家の割合が19.0%と全国で6番目に高い県であることが明らかになりました。およそ5軒に1軒が空き家と考えると、その多さが想像できるように思えます。

本町ではこうした課題に対し、空き家バンク登録制度の実施や、イターンやリターン者などの地域後継者に貸し出す目的で、空き家の整備を行った場合に、その費用の一部を補助する制度を設け周知をしてみました。

しかしながら、この制度は居住用住宅のみが要件であり、事業用には利用することはできないという課題もありました。こうした課題を踏まえ、今年度から新たに、事業者が空き店舗を利活用する際に補助を受けられる空き店舗整備事業が始まったのです。現在、空き店舗となっている建物を利用して新たに事業を始める場合に、建物の改装や水道等設備の改修に係る経費を対象に補助金が交付されます。上限額はありますが、事業を始めるきっかけに補助金があるということは、非常に心強いものと思います。

このように、町は様々な支援体制を整えながら、町内の空き家・空き店舗の利活用促進に取り組んでいます。少しずつではありますが、こうした制度を利用して、町内の遊休施設が利用されることを願っています。

空き店舗整備事業の詳しい要件については、ホームページをご覧ください。企画課までお問い合わせください。一湯目知史(ゆのめともふみ) | 中種子町地域おこし協力隊員。宮城県出身。種子島の美しい瞬間を文字にして伝えるライター。